

明日の
とりでを
考える



ひ
こ
ば
え

「藁」とは伐(き)った草木の根株から出た芽のことです。草木の根元から力強く萌え出る姿に、市民の皆さんと共に築いていく「明日のとりで」への思いを託しました。

目次

水害に備えるP2・3
コミュニティタイムラインP4・5
家族のマイ・タイムラインを作ろう！P6
鼎談 命を守るタイムライン防災P7
水害対策の取り組みP8

発行 / 取手市 編集 / 魅力とりで発信課
〒 302-8585 茨城県取手市寺田 5139
TEL 0297-74-2141 内線 1193 FAX 73-5995
ホームページ <https://www.city.toride.ibaraki.jp/>
E-mail miriyoku@city.toride.ibaraki.jp



あなたの命を守る タイムライン防災

「タイムライン」とは、災害時にどのように行動するかを時系列に整理した計画のことです。利根川・小貝川が市内を流れる取手市では、台風や豪雨の際に水害に遭う可能性があります。写真の家族のようにタイムラインを作成し、地域や家庭で水害に備えましょう。





第70回利根川水系連合・総合水防演習

近年、大雨の発生回数は増加傾向にあります。上流域での大雨により利根川や小貝川が氾濫すると、人命や家屋に被害が出る可能性があることから、これまで以上に水害への備えを進めることが必要です。今号の葉では、市の水害対策の取り組みと、地域や家庭で取り組むタイムライン防災の重要性を紹介します。

☎ 安全安心対策課 ☎ 内線 1181

なぜ水害対策が必要なのか

■高まる大雨のリスク

昭和56年の小貝川氾濫は、上流域での約30時間の総雨量が300～500mmに達したことで発生しました。同規模の大雨の発生数は当時と比較して増加傾向にあります。水害を過去のことでなく、今後も起こりうるものとして考える必要があります。

▶全国における大雨の発生日数（1,300地点あたり）

日降水量*	昭和51～60年	平成24～令和3年
200mm以上	159.9日/年	246.4日/年
400mm以上	6.4日/年	11.6日/年

※ある日の0時～24時に降った雨の量

気象庁ホームページ「大雨や猛暑日など（極端現象）のこれまでの変化」より



気象庁ホームページ
大雨の発生日数

200mm以上は
約**1.5**倍
400mm以上は
約**1.8**倍

■最大で市内の6割以上が浸水

利根川や小貝川が氾濫すると、最大で市の面積の60%以上が浸水することが想定されます。多くの方の避難が必要なことから、渋滞などの混乱を避けるための早めの避難計画や、避難生活のために必要な持ち出し品の確保など、事前の備えが重要です。

▶利根川・小貝川氾濫時の市内の浸水想定（最大）

面積

深さ

継続時間



60%以上



5～10m



約2週間*

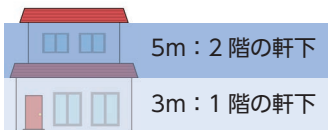
※国土交通省「利根川水系小貝川洪水浸水想定区域図（浸水継続時間）」より



市洪水ハザードマップ

Check 浸水の深さの目安

深さ5mでは家屋の2階まで浸水します。



命を守るタイムライン防災

水害から命を守るために。時系列に沿って行動計画を定めたタイムラインは、水害の対策として高い効果を発揮します。逃げ遅れをなくし、被害を軽減できるよう地域や家庭で作成してください。

「いつ」「誰が」「何をするか」

「タイムライン」とは、災害時に「いつ」「誰が」「何をするか」を時系列で整理した計画です。発生に備え、事前に作成してください。

▶タイムラインの特徴

タイムラインを作成・使用することで、以下のような効果が期待できます。

- 先を見越した早めの行動ができる
 - 防災行動の「抜け」や「漏れ」を防止できる
- また、後で振り返りやすく、改善につなげることができます。

▶水害に対して特に有効です

災害は、河川氾濫などのように徐々に事態が進行し、発生や被害をある程度予測できる「進行型災害」と、地震などのように突発的に発生し、事前に予測のできない「突発型災害」の2種類に分けることができます。防災行動に必要な時間を確保できる進行型災害への対策として、タイムラインは特に有効です。

水害発生までの流れ（台風の場合）



台風の発生



台風が上陸



河川の水位が上昇、氾濫の恐れ



堤防の決壊などで市内に被害発生

地域や家庭で作成してください

市や河川事務所はタイムラインに基づき、避難情報などを発令します。避難情報や災害・気象情報を受けて適切な防災行動を取るために、地域・家庭でもタイムラインを作成してください。

市・河川事務所

◆河川事務所

河川の水位を基に、水防警報・洪水予報を発令します。

◆取手市

河川事務所からの情報を基に、防災体制の構築・強化を行います。また、避難の判断基準となる情報（避難指示など）を市民の皆さんへ提供します。

地域

◆作成の目的

自力での避難が困難な方などが逃げ遅れないよう、地域で助け合うために作成します。

◆主体

自主防災会、自治会、市政協力員、民生委員・児童委員、防災士など、地域の防災の要となる方
◎4・5ページで作成のポイント、事例を紹介しています。

各家庭

◆作成の目的

自分の命を自分で守れるよう、行動を決めておくものです。避難先や方法、避難のタイミングなどを話し合っておきましょう。

◆主体

家族、個人など
◎6ページで作成のポイントなどを紹介しています。

皆さんの命を守るために、地域ではコミュニティタイムラインを、家庭ではマイ・タイムラインを作成し、水害の発生に備えましょう。

地域で作成を コミュニティタイムライン

災害の際に、命を守るためには地域での助け合いが重要です。災害の進行度によって誰がどのような行動をとるのかを地域で整理しておくことで、より確実に動けます。各地域でコミュニティタイムラインの作成をお願いします。

■コミュニティタイムラインとは

地域の全員が安全に避難することを目標に作成する、風水害の予報や河川水位情報などを基にした地域の行動計画です。自主防災会や民生委員・児童委員などが地域で果たす役割を時系列順にまとめています。

■市は作成を支援しています

作成を支援するため、昨年12月から今年の5月にかけて全3回の研修会を開催しました。新たにコミュニティタイムラインの作成を考えている団体は、安全安心対策課にご相談ください。

コミュニティタイムライン作成研修を開催

コミュニティ防災の第一人者、松尾一郎氏（東京大学大学院客員教授）を招き、「コミュニティ防災を目指そう！」と題したワークショップを行いました。市内の浸水想定区域となっている地区の自主防災会、市政協力員、民生委員・児童委員、防災士が参加。災害時に地域の各組織がどのような役割を担うのかを確認し、地域ごとのタイムラインを作成しました。



■作成に当たってのポイント

まずは水害のリスクをハザードマップで確認し、地域ごとの課題を洗い出しましょう。次に水害が発生した場合を想定し、「いつ」「誰が」「何をするか」をまとめてください。

自主防災会、市政協力員、民生委員・児童委員、防災士など、地域の防災の要となる方を中心に、地域で作成しましょう。

■自主防災組織の結成を支援します。

安全・安心な生活ができる地域づくりのために、補助金の交付などで自主防災組織の結成・運営を支援します。

新たに自主防災組織結成を考えている地区の方は安全安心対策課にご相談ください。

Topics

▶桜が丘自主防災会がコミュニティタイムラインを作成

桜が丘自主防災会では、研修受講後にコミュニティタイムラインを作成しました。避難の際に支援が必要な方と支援する方を調査しまとめた「あんしん台帳」の作成や、公式LINEを作成し情報を発信するなど、防災に取り組んでいます。©桜が丘自主防災会が作成したコミュニティタイムラインは5ページで紹介しています。

事前の準備で被害を最小に

研修を受けてコミュニティタイムラインを作成し、地区の広報紙で周知しました。実際に行動できるか、またどのように避難の声掛けを行うかが課題だと考えています。具体的な行動計画が、被害を最小に抑えます。各家庭でも自分ごととして考えて欲しいです。



桜が丘自主防災会
川上政和会長

コミュニティタイムラインの例

～桜が丘自主防災会の場合～

市が実施した研修の後、桜が丘自主防災会ではコミュニティタイムラインを作成しました。その内容を抜粋し、一例として紹介します。

	自主防災会	民生委員・児童委員	各家庭など
ステージ 0 日頃の備え	<ul style="list-style-type: none"> 日頃からの声の掛け合い 防災備品の備蓄、点検 避難行動要支援者台帳のメンテナンスと確認 防災訓練・教室の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の訪問の際に、高齢者世帯・一人暮らしの高齢者に対し、避難方法や場所の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 家の中・周りの危険箇所を点検 防災備品の備蓄、点検 家族の避難方法、避難先の確認
ステージ 1 行動の準備 台風発生	<ul style="list-style-type: none"> 台風の今後の進路、雨量、河川情報の収集 自主防災会内で情報共有 避難行動要支援者台帳の準備・確認 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者世帯・一人暮らしの高齢者・避難行動要支援者の名簿準備・確認 避難行動要支援者台帳の準備・確認 	<ul style="list-style-type: none"> 台風の今後の進路、雨量、河川情報の収集 避難場所・移動手手段の確認と確保 避難用備品の確認
ステージ 2 行動の開始 氾濫注意水位	<ul style="list-style-type: none"> 河川・気象情報の収集 災害対策本部立ち上げ準備 自主防災会 LINE（以下自主防 LINE）やパトロール車で避難準備声掛け 	<ul style="list-style-type: none"> 自主防災会の災害対策本部立ち上げ準備に協力 	<ul style="list-style-type: none"> 河川・気象情報の確認 避難準備を行う
ステージ 3 早期避難 避難判断水位	<ul style="list-style-type: none"> 災害対策本部の立ち上げ 自主防 LINE やパトロール車で高齢者へ避難指示 要支援者宅への避難の声掛け 	<ul style="list-style-type: none"> 自主防災会の活動を支援する 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者、妊産婦、乳幼児、障害者などの要配慮者がいる場合は早期避難 上記以外の場合でも早期避難または避難準備
ステージ 4 全員避難 氾濫危険水位	<ul style="list-style-type: none"> 自主防 LINE やパトロール車で避難指示 隣近所への避難の声掛け 		
全員避難			
ステージ 5 緊急安全確保 氾濫発生 堤防天端水位	<ul style="list-style-type: none"> 避難完了、自主防災会としての行動は不可能 	<ul style="list-style-type: none"> 避難完了、民生委員・児童委員としての行動は不可能 	<ul style="list-style-type: none"> 避難完了の場合は、避難の継続 逃げ遅れた場合は緊急垂直避難（2階への避難など）

早めの避難を



家族のマイ・タイムラインを作ろう！

家族構成や生活に合ったマイ・タイムラインを作成しましょう。作成手順や作成に当たってのポイントなどを紹介します。

■マイ・タイムラインとは

家族や個人のそれぞれが安全に避難することを目標に、「いつ・どこに・どのように」行動するのかを、風水害の予報や河川水位などを基に作成した行動計画です。避難のタイミングやその時取る行動を時系列順にまとめてください。

■作成手順

①住んでいる場所のリスクの確認

住んでいる場所の浸水深や浸水継続時間などを確認する

②家庭の状況の確認

持病薬や避難に支援が必要な人の有無などを確認する

※持病薬は、現在所持している数を確認する

③避難先の確認

避難所や親戚・知人の家など避難先への移動手段と移動時間を確認する

④避難開始・完了のタイミングの確認

災害が発生する前に避難完了できるように、避難の準備や避難開始のタイミングを確認する

■作成に当たってのポイント

さまざまな状況を想定してマイ・タイムラインを作成しましょう。昼の時間帯と夜の時間帯や平日と休日など、複数の避難経路や避難方法を考えておくことが大切です。また、職場や学校など、自宅にいない場合も考慮しておきましょう。

■マイ・タイムラインは「行動の目安」

マイ・タイムラインはあくまで行動の目安です。災害発生時は、気象警報や避難情報などをこまめに収集・確認しましょう。その情報を基に、臨機応変に防災行動の実行を判断してください。

マイ・タイムラインは、見やすい場所に



石戸さんご家族

水害が発生した際には、避難経路に車が集中したり、橋が渡れなくなってしまうことにも注意してマイ・タイムラインを作成しました。作成したマイ・タイムラインは、みんなが見やすいリビングに貼っておき、家族内で避難時の行動を共有します。

Topics

■マイ・タイムラインの作成を支援するツール

●逃げキッド

逃げキッドとは、マイ・タイムラインの骨格を手軽に作成することができるツールです。逃げキッドは下館河川事務所ホームページ（右の二次元コード）や安全安心対策課で入手できます。

●WEB版マイ・タイムライン

茨城県防災・危機管理課のホームページ（右の二次元コード）から、WEB上でマイ・タイムラインを作成することができます。





東京大学大学院客員教授
松尾一郎

取手市長
藤井信吾

取手市自主防災組織連絡協議会会長
田中壽ひさし

4 ページで紹介した「コミュニティ防災を目指そう！」ワークショップを終えて、講師を務めた松尾教授、参加者代表として田中会長、主催者である藤井市長に、改めてタイムライン防災の必要性や今後の取り組みについて伺いました。



一人一人が継続して取り組むことが重要

50 年や 100 年に一度と言われる大雨が毎年のように発生するようになりました。明らかに気象状況は変化していて、災害への備えがこれまで以上に重要です。ハード面の備えは行政が進めますが、ソフト面の備えは地域コミュニティや個人でも進める必要があります。最終的に

行動するのは一人一人の市民なのです。ワークショップ形式でコミュニティタイムラインを作成した取り組みは素晴らしいと思います。それを全地域、全世界帯に広げていく。そして一度作って終わりではなく毎年更新する。そうすることで地域全体の防災力が高まっていきます。

「自助」が基本 「共助」で補う

タイムラインの作成に取り組むと、さまざまな課題が見えてきます。課題が見えると対策を練ることができます。高齢者だけの世帯で避難が難しいなど、家庭内では解決できない課題でも、地域で取り組めば解決できるかもしれません。助けが必要なときは自主防災会などを頼っ

てください。情報を把握できていれば、地域として支援ができます。

被害が広範囲に及び河川の氾濫では、全てを行政による「公助」に頼ることはできません。自分の身は自分で守る「自助」を基本としつつ、地域による「共助」でそれを補うことが大切です。



他自治体の例も参考に逃げ遅れをゼロに

利根川・小貝川が流れる取手市ですが、40 年以上河川氾濫は起きていません。多くの人に経験がない中、河川氾濫の脅威やタイムラインの有効性を丁寧に伝え、タイムライン防災を地域・家庭に広げていく必要があると感じます。

また、行政自体が見識を深めていくこ

とも重要です。5 月 10 日、取手市を含む全国 34 市区町村が参画する「タイムライン防災・全国ネットワーク国民会議」が発足しました。「住民の命を守る」という共通の課題のため、各地の効果的な事例などを共有し、知恵を結集して「逃げ遅れゼロ」の実現を目指します。

水害対策の取り組み

市は県・国と連携して、水害に強いまちづくりを進めるとともに、水害の発生を想定した訓練などを行っています。主なものを紹介します。

水害を防ぐまちづくり

各河川事務所では堤防の強化や、水の流れをよくするための工事を順次行っています。

小貝川護岸工事

利根川下流河川事務所では、高須地区の堤防の高さを上げ、コンクリートブロックで強度を増すなどの工事を行いました。



利根川堤防（稲地区）強化

利根川上流河川事務所は、令和元年東日本台風を踏まえ、堤防の拡幅やかさ上げ（約 1.5 m）などを行いました。



河川の樹木伐採

下館河川事務所では、増水時に水が安全に流れるように、河川内の樹木を伐採しています。



利根川水系連合・総合水防演習

5月21日、取手緑地運動公園で第70回利根川水系連合・総合水防演習を開催しました。上流域での豪雨による利根川の越水・氾濫を想定し、時系列に沿って、水防、救助・救護訓練を行いました。動画では全ての演習の様子を見ることができます。

Youtube 第70回利根川水系連合・総合水防演習



水のうを積み自宅などへの浸水を防止



堤防の天端（上面）に土のうを積み越水を防止



広報車による避難の呼び掛け



流入した障害物を重機で除去



自宅などに取り残された住民の救助・救護

